

ビデオ 通信

2023年
4月10日(月)
No.4657

月・木曜日発行
月額：¥11,000(税込：¥11,880)
発行：飯澤 剛
編集：齋藤 浩一

ユニ通信社

〒114-0024
東京都北区西ヶ原 3-57-17-202
TEL：03-5422-7515
FAX：03-5422-7516
E-mail：vt@uni-press.net

パナソニック映像

映像×音×光の空間演出「BSP-LAB」をオープン

機材・商材の展示ではなく自然を感じさせる“空間”を訴求

パナソニック映像(株)はこのほど、東京・天王洲にある東京制作センターのSpace Player LAB（スペースプレーヤーラボ）をリニューアルし、新たに名称を「BSP-LAB（ビーエスピーラボ）」と変更してオープンした。「BSP-LAB」は、パナソニックのダウンライト型プロジェクター「BioSHADOW」やスポットライト型プロジェクター「Space Player」による映像演出とワイヤレススピーカーのサウンド演出、さらに同社が蓄積してきた光



の技術を掛け合わせ、心地よい空間を作り出す“空間演出LAB”。BioSHADOW×約30台のほか、Space Player、ワイヤレススピーカー、スポットライト型ナノイーX発生機などのあかりプラス商品の展示だけでなく、エントランスやオフィス、通路、ミーティングコーナーなど、各シーンをイメージできる演出、ワイヤレススピーカーの立体感のあるサウンド演出など、“映像×音×光による空間演出”が体感できるラボとなっている。従来のような機材・商材寄りの展示ではなく、自然や森林をイメージさせ、心地よい“空間”を訴求しているのが最大の特徴となっている。BSP-LABはWebサイトからの完全予約制で、来場者には1組に1人の専門スタッフがアテンドし、展示内容をわかりやすく説明する。同社では〈是非、BSP-LABの空間演出を体感いただき、新しい空間演出の検討や商談の場として活用して欲しい〉としている。

自然や心地よさを感じる“空間”を演出

BSP-LABが目指したのは「心地よい空間」。人間は先天的に自然を好ましく感じる性質があるという仮説「バイオフィリア」の考えを元に開発されたBioSHADOW、空間演出のために開発されたSpace Player、立体的なサウンドを奏でるワイヤレススピーカーに加え、ナノイーXによるきれいな空気などの商品のベースには、あかりによる研究を続けてきたパナソニックの技術が詰まっている。TVやモニターで自然の映像を「見る」のではなく自然を「感じる」空間、心地よさを「感じる」空間を提案する。

パナソニック映像では、2016年から東京制作+センターでショールームを展開しているが、今回

のリニューアルは4回目となるもので、BSPはBioSHADOWとSpace Playerの頭文字から取っている。

BSP-LABについて、マーケティング・プロデュースグループプロデューサーの松林憲彦氏（写真→）は〈これまで「Space Player」という商材のショールームで、プロジェクションマッピング的な要素が強いものでした。今回のリニューアルは、“空間”自体の心地よさ、映像や音響、光を使った空間演出を実際に体感していただき、それを様々なところに取り入れていただくことを目的としています。パナソニックによる「空間全体のコーディネート」を体感していただき、実際の事例を紹介しながら、「新しい何か」を求めて来場されるお客様の右脳を刺激します。空間自体を見ていただくことで、お客様から「こんなことはできるのか」「こんな使い方はできそう」といったアイデアが出てくることも多い〉とする。



自然を感じてもらえるような空間に

リニューアルのポイントは、映像・音響・照明を連携し、木漏れ日や小鳥のさえずりなど、自然や森林を感じてもらえるような空間にすること。ミーティングコーナー（写真→）も、新しい会議スペースとして提案する体感ゾーンの1つとなっている。〈お客様からはよく「こんなに暗い空間にはできない」と言われてきましたが、その空間全体を明るくするのではなく、テーブルの上は明るく照らして通常業務ができる一方、壁面は暗くするなど、照明によって明るさのメリハリを付けることで「空間」として成立させることができます。また、BioSHADOWは、人間は先天的に自然や森林を好ましく感じる性質があるという仮説「バイオフィリア」に基づいて商品開発しており、自然を感じていただけるような空間を作り、実際のオフィス空間として体験していただくことができます。スポットライト型やダウンライト型プロジェクター、Bluetoothによってワイヤレス接続できるスピーカーも取り込みながら、空間全体を演出した世界を体感してもらおう。最近では病院や老人ホームなどの介護施設、マンションやホテルのエントランス、企業のショールームなどでも、この照明によるメリハリを付けた空間が採用されています〉と松林氏。



取締役の竹内誠一氏は〈これまでの「Space Player Lab」は、「こういう機材を使って、こういう空間を作ってみませんか？」という機材寄りの見せ方でした。BSP-LABでは「こんなスペースはどうですか？これを実現しているのがこの機材です」という具体的な「空間」を訴求・提案するラボになっており、お客様が見た時、より具体的に「こんな風に使ってみたい」とイメージしやすくなっています〉と話す。

どのように空間をコーディネートするか

今回のリニューアルでは「どのように空間をコーディネートするのか」という発想からスタートしたという。例えば、ミーティングコーナーでは、従来のように事例ばかりを見せるのではなく、来場者にしっかりと説明し、実際に椅子に座ってもらって商談できるスペースを作る。そこに照明

設計の担当者が「ここにはスポットライトから灯りを取る」「壁は暗くなるからマッピングで映像演出をしよう」といった提案をするなど、議論の積み重ねで構築していった。

BSP-LAB で体験できるゾーンは次の通り。

▽エントランス：木漏れ日演出がやさしく出迎えてくれる。扉を開くと驚きの光景が……。

▽マッピング演出：Space Player による数々のマッピング演出が、訪れる人の心をつかむ。

▽空間イメージコーナー：ホテルやマンション、ショップをイメージした空間。ワイヤレススピーカーによる立体的なサウンドも体感できる。

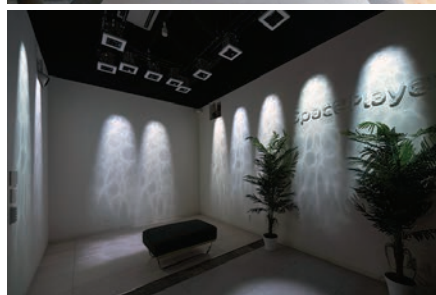
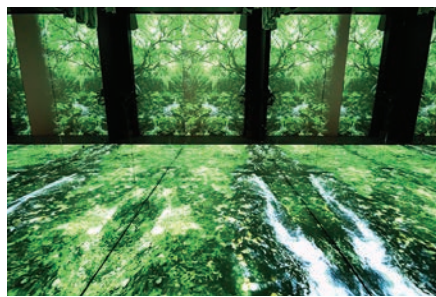
▽通路：殺風景な通路も、BioSHADOW で自然を感じる空間に変える。

▽白壁の部屋：元は何もない白い壁の空間だが、BioSHADOW の世界を体感できる。さらにここを揺さぶる演出も……。

▽ミーティングコーナー：見学の後ほっと一息できる空間。自然を感じながらのミーティングが実現する。

松林氏は「空間体験」ができるようになったところが 1 つのステップアップ、進化だと考えています。今までは空間を想像しながら考えていただいていたものが、空間を体感いただける第一歩になった。まずは BSP-LAB を体験していただき、お客様に空間演出のイメージを持っていただくという流れが理想的。川上であるトータルコーディネートから関わっていただけることで、お客様のニーズにマッチした提案ができるのではないかと考えています。コロナ禍もあって、「体験」自体をなかなかできない時期が長かったですが、少しずつ動き始めています。テレワークからオフィスに通う意義も出てきている中で、オフィス環境を改革していくという機運の高まりも感じます。映像制作会社さんにもぜひ来て欲しい。映像やプロジェクションマッピングなどを活用した well-being が当たり前になれば、私たちのビジネスも広がっていくと考えています。さらに、ご要望があれば VR 体験も含めて様々な体験ができる引き出しを持っています。是非、一度 BSP-LAB を体感して欲しいと思います」とする。

(次ページに続く)



(上から) エントランス扉を開くと、プロジェクター & 同社が制作した映像による自然の世界など様々な世界が広がる / 様々なマッピング演出のデモ。それぞれの映像は連動している / ホテルやマンションに実際に納入された空間を再現することで体験者がイメージしやすくなっている / 通路 / 壁の部屋 3 面マッピングの演出も

well-being における空間演出に期待

BSP-LAB の展開について、竹内氏（写真→）は「昨今、世の中に浸透し始めてきた「well-being」はトータルな空間から考えなければならないといった流れに乗って、「空間演出」が今後、well-being の領域で大きく伸びることを期待しています。パナソニック映像の強みはプロデュース会社であることです。その空間に最適なコーディネート、映像や演出のコンテンツ企画・制作までワンストップでトータルな提案ができる当社だからこそそのサービスではないかと考えています。今後はオフィス家具や什器メーカー、ソリューション会社とも連携し、その空間に取り入れてもらえるような取り組みを進めていきたい」と話している。



◇パナソニック映像 <https://group.connect.panasonic.com/pvi/>